



APPENDIX

A

# コマンドライン インターフェイス

---

## 概要

この付録では、Cisco Unified Communications オペレーティング システム サーバで使用できる CLI コマンドについて説明します。

## CLI セッションの開始

Cisco Unified Communications オペレーティング システム CLI には、リモートまたはローカルでアクセスできます。

- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理に使用するワークステーションなど、Web クライアント ワークステーションから、SSH を使用して Cisco Unified Communications オペレーティング システムに安全に接続できます。
- インストール時に使用したモニタとキーボードを使用して、またはシリアル ポートに接続されているターミナル サーバを使用して、Cisco Unified Communications オペレーティング システム CLI に直接アクセスできます。IP アドレスに問題がある場合は、この方法を使用してください。

### 始める前に

インストール時に定義された次の情報を用意しておきます。

- プライマリ IP アドレスとホスト名
- 管理者 ID
- パスワード

これらの情報は、Cisco IPT Platform にログインするために必要です。

CLI セッションを開始するには、次の手順を実行します。

---

**ステップ 1** アクセス方法に応じて、次のいずれかの操作を行います。

- リモート システムからアクセスする場合は、SSH を使用して Cisco IPT Platform に安全に接続します。SSH クライアントで、次のように入力します。

```
ssh adminname@hostname
```

ここで、**adminname** は管理者 ID を示し、**hostname** はインストール時に定義されたホスト名を示します。

たとえば、**ssh admin@ipt-1** のように入力します。

- 直接接続からアクセスする場合は、次のプロンプトが自動的に表示されます。

```
ipt-1 login:
```

ここで、**ipt-1** はシステムのホスト名を示します。

管理者 ID を入力します。

どちらの場合も、パスワードの入力を求められます。

**ステップ 2** パスワードを入力します。

CLI プロンプトが表示されます。このプロンプトは、管理者 ID を表します。たとえば、次のように表示されます。

```
admin:
```

---

## CLI の基本

次の項では、コマンドラインインターフェイスを使用するための基本的なヒントを示します。

### コマンドの補完

コマンドを補完するには、**Tab** キーを使用します。

- コマンドの最初の部分を入力して **Tab** キーを押すと、コマンドが補完されます。たとえば、**se** と入力して **Tab** キーを押すと、**set** と補完されます。
- コマンド名を完全に入力して **Tab** キーを押すと、使用可能なすべてのコマンドまたはサブコマンドが表示されます。たとえば、**set** と入力して **Tab** キーを押すと、**set** のサブコマンドがすべて表示されます。\* は、サブコマンドを持つコマンドを示します。
- コマンドが完成してから **Tab** キーを押し続けると、現在のコマンドラインが繰り返されます。これは、それ以上拡張できないことを示します。

### コマンドのヘルプの利用方法

どのコマンドでも、次の 2 種類のヘルプを利用できます。

- コマンドの定義と使用例が含まれている詳細なヘルプ
- コマンド構文だけが含まれている簡易クエリー ヘルプ

#### 手順

---

詳細なヘルプを利用するには、CLI プロンプトで次のように入力します。

**help command**

ここで、*command* はコマンド名またはコマンドとパラメータを示します。例 A-1 を参照してください。

コマンド構文だけを照会するには、CLI プロンプトで次のように入力します。

*command?*

ここで、*command* はコマンド名またはコマンドとパラメータを示します。例 A-2 を参照してください。



(注)

**set** などのメニュー コマンドの後に **?** を入力すると、**Tab** キーと同様に機能し、使用可能なコマンドが一覧表示されます。

---

**例 A-1 詳細なヘルプの例**

```
admin:help file list activelog

activelog help:
This will list active logging files

options are:
page      - pause output
detail   - show detailed listing
reverse  - reverse sort order
date     - sort by date
size     - sort by size

file-spec can contain '*' as wildcards

Example:
admin:file list activelog platform detail
02 Dec,2004 12:00:59      <dir>   drf
02 Dec,2004 12:00:59      <dir>   log
16 Nov,2004 21:45:43      8,557  enGui.log
27 Oct,2004 11:54:33     47,916 startup.log
dir count = 2, file count = 2
```

**例 A-2 クエリーの例**

```
admin:file list activelog?
Syntax:
file list activelog file-spec [options]
file-spec  mandatory   file to view
options    optional    page|detail|reverse| [date|size]
```

**CLI セッションの終了**

CLI プロンプトで、**quit** と入力します。リモートでログインしている場合は、ログオフされ ssh セッションが終了します。ローカルでログインしている場合は、ログオフされログインプロンプトに戻ります。

## Cisco IPT Platform の CLI コマンド

次の各項では、Cisco Unified Communications オペレーティング システムで使用可能な CLI コマンドを示し、そのコマンドについて説明します。

### delete account

このコマンドでは、管理者アカウントを削除できます。

#### コマンド構文

**delete account** *account-name*

#### パラメータ

- *account-name* は、管理者アカウントの名前を示します。

#### 要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の許可の有無 : なし

### delete cuc locale

このコマンドは、指定したロケールおよび関連付けられているすべてのファイルと設定を Connection から削除します。

#### コマンド構文

**delete cuc locale** *locale-id*

#### パラメータ

- *locale-id* は、削除するロケールの ID を示します。  
インストールされているロケールとその ID のリストを表示するには、[show cuc locales](#) コマンドを実行します。ロケール ID は、大文字と小文字が区別されます。

#### 使用上のガイドライン

このコマンドを実行する前に、Connection Conversation Manager を停止する必要があります。このコマンドを実行した後に、Connection Conversation Manager を再起動する必要があります。

#### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

#### 例

次の例では、en-GB ロケールおよび関連付けられているすべてのファイルと設定を削除します。

```
delete cuc locale en-GB
```

```
en-GB uninstalled
```

## delete dns

このコマンドでは、DNS サーバの IP アドレスを削除できます。

### コマンド構文

```
delete dns ip-address
```

### パラメータ

- *ip-address* は、削除する DNS サーバの IP アドレスを示します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



---

続行する場合は、このコマンドによって一時的にネットワーク接続が切断されます。

---

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## delete ipsec

このコマンドでは、IPSec ポリシーおよびアソシエーションを削除できます。

### コマンド構文

```
delete ipsec
```

```
    policy {ALL | policy-name}  
    association policy name {ALL | association-name}
```

### パラメータ

- *policy-name* は、IPSec ポリシーを示します。
- *association-name* は、IPSec アソシエーションを示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## delete process

このコマンドでは、特定のプロセスを削除できます。

### コマンド構文

```
delete process process-id [force | terminate | crash]
```

### パラメータ

- *process-id* は、プロセス ID 番号を示します。

### オプション

- **force** : プロセスに停止するよう指示します。
- **terminate** : オペレーティングシステムにプロセスを終了するよう指示します。
- **crash** : プロセスをクラッシュさせ、クラッシュ ダンプを生成します。

### 使用上のガイドライン



(注) このコマンド単独でプロセスが削除されない場合に限り、**force** オプションを使用してください。  
**force** でプロセスが削除されない場合に限り、**terminate** オプションを使用してください。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## delete smtp

このコマンドでは、SMTP ホストを削除できます。

### コマンド構文

```
delete smtp
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## file check

このコマンドは、/usr ディレクトリ ツリーで、最後のフレッシュ インストールまたはアップグレード以降に追加、削除、またはサイズ変更されたファイルやディレクトリがないかどうか調べ、結果を表示します。

### コマンド構文

**file check** [*detection-size-kb*]

### オプション

*detection-size-kb* は、このコマンドでファイルに変更があることを表示するために必要な最小限のファイルサイズの変更量を示します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドでは、システムのパフォーマンスに影響する可能性があることが通知され、続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



#### 注意

---

このコマンドを実行するとシステムのパフォーマンスに影響する可能性があるため、シスコではオフピーク時にこのコマンドを実行することをお勧めします。

---

削除されたファイルと新しいファイルの両方が表示されます。

### デフォルト

*detection-size-kb* のデフォルト値は、100 KB です。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし



## file delete

このコマンドは、1 つまたは複数のファイルを削除します。

### コマンド構文

#### file delete

```
activelog directory/filename [detail] [noconfirm]
inactivelog directory/filename [detail] [noconfirm]
install directory/filename [detail] [noconfirm]
tftp directory/filename [detail]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は、削除するファイル (複数可) のパスおよびファイル名を示します。**filename** には、ワイルドカード文字 \* を使用できます。

### オプション

- **detail** : 削除したファイルのリスト (日時を含む) を表示します。
- **noconfirm** : 削除のたびに確認を求めずに、ファイルを削除します。

### 使用上のガイドライン



#### 注意

障害復旧システムを使用して復旧できる場合を除いて、削除したファイルは復旧できません。

非アクティブ側の TFTP データ ファイルを削除した場合、バージョンを非アクティブ側に切り替えるときは、必要に応じてそのファイルを手動で復元してください。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、インストール ログを削除します。

```
file delete install install.log
```

## file dump

このコマンドは、ファイルの内容を一度に 1 ページずつ画面にダンプします。

### コマンド構文

#### file dump

```
activelog directory/filename [detail] [hex]  
inactivelog directory/filename [detail] [hex]  
install directory/filename [detail] [hex]  
tftp directory/filename [detail] [hex]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- *directory/filename* は、ダンプするファイルのパスおよびファイル名を示します。*filename* には、ワイルドカード文字 \* を使用できます。ただし、1 つのファイルに解決される場合に限りです。

### オプション

- **detail** : 日時を含むリストを表示します。
- **hex** : 出力を 16 進数で表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : ログの場合は 1、TFTP ファイルの場合は 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次のコマンドは、ファイル `_cdrIndex.idx` の内容をダンプします。

```
file dump activelog cm/cdr/_cdrIndex.idx
```

## file get

このコマンドは、SFTP を使用して、ファイルを別のシステムに送信します。

### コマンド構文

#### file get

```
activelog directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
inactivelog directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
install directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
tftp directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は、送信するファイル（複数可）へのパスを示します。**filename** には、ワイルドカード文字 \* を使用できます。ただし、1 つのファイルに解決される場合に限りです。

### オプション

- **abstime** : 絶対的な期間。hh:mm:MM/DD/YY hh:mm:MM/DD/YY のように指定します。
- **reltime** : 相対的な期間。minutes | hours | days | weeks | months value のように指定します。
- **match** : ファイル名の特定のストリングを照合します。string value のように指定します。
- **recurs** : サブディレクトリを含め、すべてのファイルを取得します。

### 使用上のガイドライン

指定したファイルがコマンドによって識別された後、SFTP ホスト、ユーザ名、およびパスワードの入力を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次のコマンドは、**activelog** に指定したオペレーティング システムのディレクトリ内でストリング「plat」に一致するすべてのファイルを取得します。

```
file get activelog platform match plat
```

次のコマンドは、特定の期間のオペレーティング システムのログ ファイルをすべて取得します。

```
file get activelog platform/log abstime 18:00:9/27/2005 18:00:9/28/2005
```

## file list

このコマンドは、使用可能なログ ディレクトリ内のログ ファイルを一覧表示します。

### コマンド構文

#### file list

```

activelog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]
inactivelog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]
install directory [page] [detail] [reverse] [date | size]
tftp directory [page] [detail] [reverse] [date | size]

```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- *directory* は、表示するディレクトリへのパスを示します。*directory* には、ワイルドカード文字 \* を使用できます。ただし、1つのディレクトリに解決される場合に限りです。

### オプション

- **detail** : 日時を含む長いリストを表示します。
- **date** : 日付でソートします。
- **size** : ファイル サイズでソートします。
- **reverse** : ソート方向を逆にします。
- **page** : 出力を一度に 1 画面ずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : ログの場合は 1、TFTP ファイルの場合は 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、オペレーティング システムのログ ファイルの詳細を一覧表示します。

```
file list activelog platform/log page detail
```

次の例では、CDR リポジトリ内のディレクトリを一覧表示します。

```
file list activelog cm/cdr_repository
```

次の例では、指定したディレクトリ内の CDR ファイルをサイズでソートして一覧表示します。

```
file list activelog cm/cdr_repository/processed/20050812 size
```

## file search

このコマンドは、ログの内容を検索し、一致する行を一度に 1 ページずつ表示します。

### コマンド構文

#### file search

```
activelog directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
inactivelog directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy]
[ignorecase] [retime {days | hours | minutes} timevalue]
install directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
tftp directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- **reg-exp** は、正規表現を示します。
- **directory/filename** は、検索するファイル（複数可）へのパスを示します。ワイルドカード文字 \* を使用して、ファイル名のすべてまたは一部を表すことができます。

### オプション

- **abstime** : ファイルの作成時刻に基づいてファイルを検索します。開始時刻と終了時刻を入力します。
- **days|hours|minutes** : ファイルの存在期間の単位が日数、時間数、分数のいずれであるかを指定します。
- **ignorecase** : 検索時に大文字と小文字を区別しません。
- **retime** : ファイルの作成時刻に基づいてファイルを検索します。検索するファイルの存在期間を入力します。
- **hh:mm:ss mm/dd/yyyy** : 絶対時刻。時 : 分 : 秒 月 / 日 / 年 という形式です。
- **timevalue** : 検索するファイルの存在期間。この値の単位は、{**days | hours | minutes**} オプションで指定します。

### 使用上のガイドライン

検索語句は正規表現の形式で記述します。正規表現とは、検索パターンを記述するための特別なテキスト ストリングです。

検索語句が 1 つのファイルだけで見つかった場合、出力の最上部にファイル名が表示されます。検索語句が複数のファイルで見つかった場合、出力の各行の先頭に、一致する行が見つかったファイル名が表示されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
file search activelog platform/log/platform.log Err[a-z] ignorecase
```

## file tail

このコマンドは、ログ ファイルの末尾を表示（最後の数行を出力）します。

### コマンド構文

#### file tail

```
activelog directory/filename [detail] [hex] [lines]
inactivelog directory/filename [detail] [hex] [lines]
install directory/filename [detail] [hex] [lines]
tftp directory/filename [detail] [hex] [lines]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は、末尾を表示する対象のファイルへのパスを示します。filename には、ワイルドカード文字 \* を使用できます。ただし、1 つのファイルに解決される場合に限りです。

### オプション

- **detail** : 日時を含む長いリストを表示します。
- **hex** : 16 進数のリストを表示します。
- **lines** : 表示する行数です。

### 要件

コマンド特権レベル : ログの場合は 1、TFTP ファイルの場合は 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、オペレーティング システム CLI ログ ファイルの末尾を表示します。

```
file tail activelog platform/log/cli00001.log
```

## file view

このコマンドは、ファイルの内容を表示します。

### コマンド構文

#### file view

```
activelog directory/filename  
inactivelog directory/filename  
install directory/filename  
tftp directory/filename
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- *directory/filename* は、表示するファイルへのパスを示します。*filename* には、ワイルドカード文字 \* を使用できます。ただし、1つのファイルに解決される場合に限りです。

### 使用上のガイドライン



#### 注意

---

このコマンドをバイナリ ファイルの表示に使用しないでください。端末セッションが破損する可能性があります。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、インストール ログを表示します。

```
file view install install.log
```

次の例では、特定の CDR ファイルを表示します。

```
file view activelog /cm/cdr_repository/processed/20058012/{filename}
```

## run cuc dbquery

このコマンドは、SQL クエリーを実行し、結果を表示します。

### コマンド構文

```
run cuc dbquery database_name sql_statement [page]
```

### パラメータ

- *database\_name* は、*sql\_statement* の実行対象となるデータベースを示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイルシステムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイスメッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログ データが含まれています。
- *sql\_statement* は、実行する SQL クエリーを示します。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、unitydirdb データベースに対して SQL クエリー **select alias from vw\_usertemplate** を実行します。

```
run cuc dbquery unitydirdb select alias from vw_usertemplate
```

```
AdministratorTemplate
```

```
VoiceMailUserTemplate
```



## run cuc sysagent task

このコマンドは、Sysagent タスクを実行します。

### コマンド構文

```
run cuc sysagent task task_name
```

### パラメータ

- *task\_name* は、実行する Sysagent タスクの名前を示します。  
Sysagent タスクのリストを表示するには、コマンド **show cuc sysagent task list** を実行します。  
Sysagent タスク名は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

### 例

次の例では、Sysagent タスク **CleanDeletedMessagesTask** を実行します。

```
run cuc sysagent task CleanDeletedMessagesTask  
  
CleanDeletedMessagesTask started
```

## run sql

このコマンドでは、SQL コマンドを実行できます。

### コマンド構文

```
run sql sql_statement
```

### パラメータ

- *sql\_statement* は、実行する SQL コマンドを示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

### 例

次の例では、SQL コマンドを実行します。

```
run sql select name from device
```

## set account

このコマンドは、オペレーティング システム上の新しいアカウントを設定します。

### コマンド構文

```
set account name
```

### パラメータ

- *name* は、新しいアカウントのユーザ名を示します。

### 使用上のガイドライン

ユーザ名を入力した後、新しいアカウントの特権レベルとパスワードの入力を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set commandcount

このコマンドは、CLI コマンド プロンプトを変更して、実行済みの CLI コマンド数を表示するようにします。

### コマンド構文

```
set commandcount {enable | disable}
```

### パラメータ

- *enable* は、CLI コマンド数の表示を有効にします。
- *disable* は、CLI コマンド数の表示を無効にします。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set cuc trace

このコマンドは、指定したトレースおよびトレース レベルを有効または無効にします。

### コマンド構文

```
set cuc trace {enable | disable} trace_name level
```

### パラメータ

- **enable** は、Connection トレースを有効にします。**enable** は、大文字と小文字が区別されます。
- **disable** は、Connection トレースを無効にします。**disable** は、大文字と小文字が区別されます。
- **trace\_name** は、有効または無効にするトレースの名前を示します。トレース名は、大文字と小文字が区別されます。
- **level** は、有効または無効にする **trace\_name** のレベルを示します。各トレースには最大 31 個のレベルがあり、0 ~ 30 の番号が付けられています。レベルごとに、指定したトレースに関する異なるタイプの情報が提供されます。複数のレベルを有効または無効にする場合は、カンマを使用してレベルを区切り、ハイフンを使用してレベルの範囲を示します。スペースを入れないでください。

### 使用上のガイドライン

現在有効になっているトレースおよびトレース レベルのリストを表示するには、**show cuc trace levels** コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、VUI トレース 1、13、および 17 ~ 20 を有効にします。

```
set cuc trace enable VUI 1,13,17-20
```

```
VUI trace levels are now set to: 1,13,17-20
```

次の例では、VUI トレース 17 ~ 20 を無効にします。VUI トレース レベル 1 および 13 は、設定されたままです。

```
set cuc trace disable VUI 17-20
```

```
VUI trace levels are now set to: 1,13
```

## set ipsec

このコマンドでは、IPSec ポリシーおよびアソシエーションを設定できます。

### コマンド構文

**set ipsec**

```
policy {ALL | policy-name}  
association policy-name {ALL | association-name}
```

### パラメータ

- *policy-name* は、IPSec ポリシーを示します。
- *association-name* は、IPSec アソシエーションを示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set logging

このコマンドでは、ロギングを有効または無効にすることができます。

### コマンド構文

**set logging {enable | disable}**

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

## set network dhcp

このコマンドは、イーサネット インターフェイス 0 の DHCP を有効または無効にします。イーサネット インターフェイス 1 を設定することはできません。

### コマンド構文

```
set network dhcp eth0 {enable | disable}
```

### パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドによってシステムが再起動します。また、シスコでは、IP アドレスの変更があった場合は必ず、すべてのノードを再起動することをお勧めします。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network dns

このコマンドは、プライマリまたはセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

### コマンド構文

```
set network dns {primary | secondary} ip-address
```

### パラメータ

- **ip-address** は、プライマリまたはセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを示します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドによって一時的にネットワーク接続が切断されます。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network dns options

このコマンドは、DNS オプションを設定します。

### コマンド構文

```
set network dns options [timeout seconds] [attempts number] [rotate]
```

### パラメータ

- **timeout** は、DNS 要求のタイムアウトを設定します。
- **attempts** は、DNS 要求が終了するまでに試行できる回数を設定します。
- **rotate** では、システムが複数の設定済み DNS サーバを順に使用することで、負荷が分散されます。
- **seconds** は、DNS のタイムアウト期間（秒単位）を示します。
- **number** は、試行回数を示します。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## set network domain

このコマンドは、システムのドメイン名を設定します。

### コマンド構文

```
set network domain domain-name
```

### パラメータ

- **domain-name** は、割り当てるシステム ドメインを示します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



#### 注意

続行する場合は、このコマンドによって一時的にネットワーク接続が切断されます。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set network failover

このコマンドは、Media Convergence Server ネットワーク インターフェイス カード上のネットワーク耐障害性を有効または無効にします。

### コマンド構文

```
failover {enable | disable}
```

### パラメータ

- **enable** は、ネットワーク耐障害性を有効にします。
- **disable** は、ネットワーク耐障害製を無効にします。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set network gateway

このコマンドでは、ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを設定できます。

### コマンド構文

```
set network gateway ip-address
```

### パラメータ

- *ip-address* は、ネットワーク ゲートウェイに割り当てる IP アドレスを示します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



### 注意

---

続行する場合は、このコマンドによってシステムが再起動します。

---

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set network ip

このコマンドは、イーサネット インターフェイス 0 の IP アドレスを設定します。イーサネット インターフェイス 1 を設定することはできません。

### コマンド構文

```
set network ip eth0 ip-address ip-mask
```

### パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- **ip-address** は、割り当てる IP アドレスを示します。
- **ip-mask** は、割り当てる IP マスクを示します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

**注意**

---

続行する場合は、このコマンドによってシステムが再起動します。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network mtu

このコマンドは、最大 MTU 値を設定します。

### コマンド構文

```
set network mtu mtu_max
```

### パラメータ

- **mtu\_max** は、最大 MTU 値を示します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

**注意**

---

続行する場合は、システムのネットワーク接続が一時的に切断されます。

---



## set network max\_ip\_contrack

このコマンドは、ip\_contrack\_max 値を設定します。

### コマンド構文

```
set network max_ip_contrack ip_contrack_max
```

### パラメータ

- ip\_contrack\_max は、ip\_contrack\_max の値を示します。

## set network nic

このコマンドは、イーサネット インターフェイス 0 のプロパティを設定します。イーサネット インターフェイス 1 を設定することはできません。

### コマンド構文

```
set network nic eth0 [auto en | dis] [speed 10 | 100] [duplex half | full]
```

### パラメータ

- eth0 は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- auto は、自動ネゴシエーションの有効化または無効化を指定します。
- speed は、イーサネット接続の速度（10 Mbps または 100 Mbps）を指定します。
- duplex は、半二重または全二重を指定します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



(注)

---

アクティブな NIC を一度に 1 つだけ有効にすることができます。

---



注意

---

続行する場合は、このコマンドによって NIC のリセット中に一時的にネットワーク接続が切断されます。

---

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set network pmtud

このコマンドは、Path MTU Discovery を有効または無効にします。

### コマンド構文

```
set network pmtud [enable | disable]
```

### パラメータ

- **enable** は、Path MTU Discovery を有効にします。
- **disable** は、Path MTU Discovery を無効にします。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

**注意**

---

続行する場合は、システムのネットワーク接続が一時的に切断されます。

---

## set network status

このコマンドは、イーサネット 0 のステータスを up または down に設定します。イーサネット インターフェイス 1 を設定することはできません。

### コマンド構文

```
set network status eth0 {up | down}
```

### パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

**注意**

---

続行する場合は、システムのネットワーク接続が一時的に切断されます。

---

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set password

このコマンドでは、管理者パスワードおよびセキュリティパスワードを変更できます。

### コマンド構文

```
set password {admin | security}
```

### パラメータ

- `eth0` は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

### 使用上のガイドライン

古いパスワードと新しいパスワードの入力を求められます。



### 注意

パスワードは、6 文字以上にする必要があります。システムによって、パスワードの強度が確認されます。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set smtp

このコマンドは、SMTP サーバのホスト名を設定します。

### コマンド構文

```
set smtp hostname
```

### パラメータ

- `hostname` は、SMTP サーバ名を示します。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

## set timezone

このコマンドでは、システムのタイムゾーンを変更できます。

### コマンド構文

```
set timezone timezone
```

### パラメータ

- `timezone` は、新しいタイムゾーンを示します。

### 使用上のガイドライン

新しいタイムゾーンを一意に識別するために十分な文字を入力します。タイムゾーン名は大文字と小文字が区別されることに注意してください。

**注意**

タイムゾーンの変更後、システムを再起動する必要があります。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

### 例

次の例では、タイムゾーンを太平洋時間に設定します。

```
set timezone Pac
```

## set trace

このコマンドは、指定したタスクのトレース アクティビティを設定します。

### コマンド構文

**set trace**

```
enable Error tname
enable Special tname
enable State_Transition tname
enable Significant tname
enable Entry_exit tname
enable Arbitrary tname
enable Detailed tname
disable tname
```

### パラメータ

- *tname* は、トレースを有効または無効にするタスクを示します。
- **enable Error** は、タスクのトレース設定を Error レベルに設定します。
- **enable Special** は、タスクのトレース設定を Special レベルに設定します。
- **enable State\_Transition** は、タスクのトレース設定を State\_Transition レベルに設定します。
- **enable Significant** は、タスクのトレース レベルを Significant レベルに設定します。
- **enable Entry\_exit** は、タスクのトレース設定を Entry\_exit レベルに設定します。
- **enable Arbitrary** は、タスクのトレース設定を Arbitrary レベルに設定します。
- **enable Detailed** は、タスクのトレース設定を Detailed レベルに設定します。
- **disable** は、タスクのトレース設定を解除します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set web-security

このコマンドは、オペレーティング システムの Web セキュリティ証明書情報を設定します。

### コマンド構文

```
set web-security orgunit orgname locality state country
```

### パラメータ

- *orgunit* は、組織ユニットを示します。
- *orgname* は、組織名を示します。
- *locality* は、組織の地域を示します。
- *state* は、組織の都道府県を示します。
- *country* は、組織の国を示します。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

## set workingdir

このコマンドは、アクティブ ログ、非アクティブ ログ、およびインストール ログの作業ディレクトリを設定します。

### コマンド構文

```
set workingdir
```

```
activelog directory
```

```
inactivelog directory
```

```
install directory
```

```
tftp directory
```

### パラメータ

- *activelog* は、アクティブ ログの作業ディレクトリを設定します。
- *inactivelog* は、非アクティブ ログの作業ディレクトリを設定します。
- *install* は、インストール ログの作業ディレクトリを設定します。
- *tftp* は、TFTP ファイルの作業ディレクトリを設定します。
- *directory* は、現在の作業ディレクトリを示します。

### 要件

コマンド特権レベル：ログの場合は 0、TFTP の場合は 1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show account

このコマンドは、マスター管理者アカウント以外の現在の管理者アカウントを一覧表示します。

### コマンド構文

```
show account
```

### 要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show cert

このコマンドは、証明書の内容および証明書信頼リストを表示します。

### コマンド構文

```
show cert
```

```
    own filename
```

```
    trust filename
```

```
    list {own | trust}
```

### パラメータ

- *filename* は、証明書ファイルの名前を示します。
- **own** は、所有する証明書を指定します。
- **trust** は、trusted certificate を指定します。
- **list** は、証明書信頼リストを指定します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次のコマンドは、所有する証明書信頼リストを表示します。

```
show cert list own
```

## show cuc config groups

このコマンドは、有効な設定グループ名のリストを表示します。

### コマンド構文

```
show cuc config groups [page]
```

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 使用上のガイドライン

特定のグループの設定のリストを表示するには、コマンド **show cuc config settings** を実行します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc config groups
```

```
CiscoLicensing
ConfigurationAssistant
Conversations
Directory
Groupware
LogMgr
Messaging
:
:
Telephony
```

## show cuc config settings

このコマンドは、指定した Connection コンフィギュレーション設定グループの設定および値を表示します。

### コマンド構文

```
show cuc config settings group_name [page]
```

### パラメータ

- *group\_name* は、設定を表示する対象の設定グループの名前を示します。  
有効なグループ名のリストを表示するには、コマンド **show cuc config groups** を実行します。グループ名は、大文字と小文字が区別されます。

### オプション

- *page* : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。 *page* は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、グループ SA のコンフィギュレーション設定を表示します。

```
show cuc config settings SA
```

SA Setting	Value
-----	-----
SessionTimeout	20
Use24HrClockFormat	0

## show cuc dbconsistency

このコマンドは、指定したデータベースのテーブルおよびインデックスに矛盾がないかどうかを確認します。

### コマンド構文

```
show cuc dbconsistency database_name
```

### パラメータ

- *database\_name* は、確認するデータベースの名前を示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイルシステムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイスメッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログ データが含まれています。

### 使用上のガイドライン

このコマンドが完了すると、詳細情報がログ ファイルに保存され、ログ ファイルの場所など、結果の概要が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用します。



#### 注意

データベースの一貫性の確認は、システムのパフォーマンスに重大な影響を及ぼします。システムアクティビティがまったく存在しないか、またはほとんど存在しない場合に限り、このコマンドを実行してください。この確認動作は、開始後にキャンセルできません。動作中は、サーバを再起動しないでください。Connection が正しく機能するには、この動作が正常に完了する必要があります。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、unityrptdb データベースの一貫性を確認します。

```
show cuc dbconsistency unityrptdb
```

```
Checking consistency of unityrptdb tables. Please wait.
```

```
Consistency check of unityrptdb tables successful.
```

```
Validation of unityrptdb indexes successful.
```

```
Output is in file: cuc/cli/consistency_unityrptdb_070404-123636.txt
```



## show cuc dbcontents

このコマンドは、指定したデータベースから CSV ファイルにデータをエクスポートします。

### コマンド構文

```
show cuc dbcontents database_name
```

### パラメータ

- *database\_name* は、データを CSV ファイルにエクスポートする対象のデータベースの名前を示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイル システムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイス メッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログ データが含まれています。

### 使用上のガイドライン

このコマンドが完了すると、CSV ファイルの場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用します。



#### 注意

---

データベースの内容を CSV ファイルに保存する操作は、システムのパフォーマンスに影響します。システム アクティビティがまったく存在しないか、またはほとんど存在しない場合に限り、このコマンドを実行してください。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、**unitydirdb** データベースから CSV ファイルにデータをエクスポートし、ファイルの場所を表示します。

```
show cuc dbcontents unitydirdb
```

```
This operation may take a few minutes to complete. Please wait.
```

```
Output is in file: cuc/cli/contents_unitydirdb_070404-124027.csv
```

## show cuc dbschema

このコマンドは、指定したデータベースのスキーマを複製するために必要な SQL 文をファイルにエクスポートします。

### コマンド構文

```
show cuc dbschema database_name
```

### パラメータ

- *database\_name* は、スキーマをエクスポートする対象のデータベースの名前を示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイルシステムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイス メッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログ データが含まれています。

### 使用上のガイドライン

このコマンドが完了すると、ファイルの場所が表示されます。ファイルを表示するには、**file** コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、unitydirdb データベースのスキーマを複製する SQL 文をファイルにエクスポートし、ファイルの場所を表示します。

```
show cuc dbschema unitydirdb
```

```
Output is in file: cuc/cli/schema_unitydirdb_061013-115815.sql
```

## show cuc dbserver disk

このコマンドは、現在のサーバ上のすべての Connection データベースの Informix 記憶域に関する概要情報を表示します。

### コマンド構文

**show cuc dbserver disk** [**page** | **file**]

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。
- **file** : 出力をファイルに保存します。このオプションを指定した場合、概要にファイルの場所が含まれます。**file** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc dbserver disk
```

```
Dbspaces
```

```
=====
```

DbSpace Number	DbSpace Name	Size MB	Used MB	Free MB	Percent Free
1	rootdbs	300.0	107.3	192.7	64
2	ciscounity_sbospace	20.0	19.0	1.0	5

```
Chunks
```

```
=====
```

Chunk	Offset	Size MB	Free MB	Path
1	0	300.0	192.7	/var/opt/cisco/connection/db/root_dbospace
2	250	20.0	1.0	/usr/local/cm/db/informix/databases/ciscounity_sbospace

## show cuc dbserver session

このコマンドは、指定した Informix データベース ユーザ セッションに関する概要情報を表示します。

### コマンド構文

```
show cuc dbserver session session_id [page | file]
```

### パラメータ

- session\_id* は、概要情報を表示する対象のデータベース ユーザ セッションを示します。現在のセッションのリストを表示するには、[show cuc dbserver sessions list](#) コマンドまたは [show cuc dbserver user list](#) コマンドを使用します。

### オプション

- page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。
- file** : 出力をファイルに保存します。このオプションを指定した場合、概要にファイルの場所が含まれます。**file** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、データベース ユーザ セッション 63 に関する概要情報を表示します。

```
show cuc dbserver session 63

IBM Informix Dynamic Server Version 10.00.UC4W3  -- On-Line -- Up 5 days 20:38:40 --
255716 Kbytes

session
id      user      tty      pid      hostname threads  total   used   dynamic
63      dbuser    -        11488    smilliga 1        184320  143808 off

tid      name      rstcb    flags    curstk   status
108      sqlexec   4bedd2b0 Y--P--- 4064     cond wait(netnorm)

Memory pools      count 1
name      class addr      totalsize freesize #allocfrag #freefrag
63        V      4e774020 180224   38064    134      30

name      free      used      name      free      used
sql       0         40        rdahead   0         448

Sess SQL      Current      Iso Lock      SQL  ISAM F.E.
Id  Stmt type      Database      Lvl Mode      ERR  ERR  Vers Explain
63  -      -      ccm0500v0000 CR  Wait 30      0   0   9.03 Off

Last parsed SQL statement :
select paramvalue from processconfig where
paramName='RisCleanupTimeOfDay'
```

## show cuc dbserver sessions all

このコマンドは、現在のすべての Informix データベース ユーザ セッションに関する概要情報を表示します。

### コマンド構文

**show cuc dbserver sessions all** [page | file]

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。
- **file** : 出力をファイルに保存します。このオプションを指定した場合、概要にファイルの場所が含まれます。**file** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc dbserver sessions all
```

```
IBM Informix Dynamic Server Version 10.00.UC4W3 -- On-Line -- Up 5 days 20:38:40 --
255716 Kbytes
```

session id	user	tty	pid	hostname	#RSAM threads	total memory	used memory	dynamic explain
63	dbuser	-	11488	smilliga	1	184320	143808	off

tid	name	rstcb	flags	curstk	status
108	sqlexec	4bedd2b0	Y--P---	4064	cond wait (netnorm)

Memory pools name	class	addr	count	totalsize	freesize	#allocfrag	#freefrag
63	V	4e774020	1	180224	38064	134	30

name	free	used	name	free	used
opentable	0	3256	filetable	0	704

Sess Id	SQL Stmt type	Current Database	Iso Lvl	Lock Mode	SQL ERR	ISAM ERR	F.E. Vers	Explain
63	-	ccm0500v0000	CR	Wait 30	0	0	9.03	Off

```
Last parsed SQL statement :
select paramvalue from processconfig where
paramName='RisCleanupTimeOftheDay'
```

## show cuc dbserver sessions list

このコマンドは、現在の Informix データベース ユーザ セッションのリストを表示します。

### コマンド構文

**show cuc dbserver sessions list** [page]

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

**使用上のガイドライン**

内部データベース ユーザの名前は、通常、Connection コンポーネントの名前と一致します。 **show cuc dbserver session** を実行する前にこのコマンドを実行して、必要なセッション ID を取得します。

結果はセッション ID でソートされます。

**要件**

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

**例**

```
show cuc dbserver sessions list
```

Session	Database	User	PID
14	unitydirdb	tomcat	4707
4986	unitydirdb	cudbeventpublisher	5818

**show cuc dbserver user list**

このコマンドは、アクティブな Connection 内部データベース ユーザのリストを表示します。

**コマンド構文**

```
show cuc dbserver user list [page]
```

**オプション**

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。 **page** は、大文字と小文字が区別されます。

**使用上のガイドライン**

内部データベース ユーザの名前は、通常、Connection コンポーネントの名前と一致します。

結果は、データベース、ユーザの順にソートされます。

**要件**

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

**例**

```
show cuc dbserver user list
```

Database	User	Session	PID
unitydirdb	tomcat	18	4707
unitydirdb	cunotifier	5064	8690
unitydirdb	cumta	5028	8504
unitydirdb	cumixer	5018	8190
unitydirdb	cuscavenger	5114	8943

## show cuc dbserver user waiting

このコマンドは、リソースを待っている Connection 内部ユーザが存在する場合、そのリストを表示します。

### コマンド構文

**show cuc dbserver user waiting** [page]

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。 **page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 使用上のガイドライン

内部データベース ユーザの名前は、通常、Connection コンポーネントの名前と一致します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc dbserver user waiting
```

User Name	Session ID	Waiting On					
		Latch	Lock	Buffer	Chkpt	Trans	In Crit
cucsmgr	5403	N	N	N	N	N	N
cudbeventpublisher	4989	N	N	N	N	N	N
cugalsvc	5097	N	N	N	N	N	N

## show cuc dbtable contents

このコマンドは、指定したテーブルの内容を CSV ファイルにエクスポートします。

### コマンド構文

**show cuc dbtable contents** *database\_name table\_name*

### パラメータ

- *database\_name* は、内容を CSV ファイルにエクスポートする対象のテーブルが含まれているデータベースを示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイルシステムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイス メッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログ データが含まれています。
- *table\_name* は、内容を CSV ファイルにエクスポートする対象のテーブルを示します。特定のデータベース内のテーブルのリストを表示するには、**show cuc dbtable list** コマンドを使用します。テーブル名は、大文字と小文字が区別されます。

### 使用上のガイドライン

このコマンドが完了すると、CSV ファイルの場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

### 例

```
show cuc dbtable contents unitydirdb tbl_cos
```

```
Output is in file: cuc/cli/contents_tbl_cos_1013-113910.csv
```

## show cuc dbtable list

このコマンドは、指定したデータベース内のテーブルのリストを表示します。

### コマンド構文

```
show cuc dbtable list database_name [page]
```

### パラメータ

- *database\_name* は、テーブルのリストを表示する対象のデータベースを示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb**：ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb**：Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1**：ファイル システムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイス メッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb**：監査ログ データが含まれています。

### オプション

- **page**：出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

### 例

```
show cuc dbtable list unitydirdb
```

```
tbl_accountlogonpolicy
tbl_agency
tbl_agencyextensionrange
tbl_alias
tbl_alternatename
tbl_broadcastmessage
tbl_broadcastmessagerecipient
...
tbl_waveformat
```



## show cuc dbtable schema

このコマンドは、指定したテーブルの説明と、そのテーブル内のカラムのリストを表示します。

### コマンド構文

```
show cuc dbtable schema database_name table_name [page]
```

### パラメータ

- *database\_name* は、スキーマを表示する対象のテーブルが含まれているデータベースを示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイル システムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイス メッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログ データが含まれています。
- *table\_name* は、スキーマを表示する対象のテーブルを示します。  
特定のデータベース内のテーブルのリストを表示するには、**show cuc dbtable list** コマンドを使用します。テーブル名は、大文字と小文字が区別されます。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、データベース **unitydirdb** 内のテーブル **tbl\_user** のスキーマを表示します。

```
show cuc dbtable schema unitydirdb tbl_cos
```

```
A collection of service privileges for subscribers that control access to
features and use of the system into classes. Class Of Service objects
determine which features a subscriber is licensed to use, the maximum length
of their greetings and messages, what numbers they are allowed to dial, and
what options are available to the subscriber among other things.
```

```
Columns:
displayname
movetodeletefolder
accessunifiedclient
...
accesslivereply
```

## show cuc dbview contents

このコマンドは、指定した SQL ビューの結果を CSV ファイルに保存します。

### コマンド構文

```
show cuc dbview contents database_name view_name
```

### パラメータ

- *database\_name* は、結果をファイルに保存する対象のビューが含まれているデータベースを示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイルシステムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイスメッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログデータが含まれています。
- *view\_name* は、結果をファイルに保存する対象のビューを示します。  
特定のデータベース内のビューのリストを表示するには、**show cuc dbview list** コマンドを使用します。ビュー名は、大文字と小文字が区別されます。

### 使用上のガイドライン

このコマンドが完了すると、CSV ファイルの場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、データベース **unitydirdb** 内のビュー **vw\_cos** の結果を CSV ファイルに保存します。

```
show cuc dbview contents unitydirdb vw_cos
```

```
Output is in file: cuc/cli/contents_vw_cos_061013-113910.csv
```

## show cuc dbview list

このコマンドは、指定したデータベース内のビューのリストを表示します。

### コマンド構文

```
show cuc dbview list database_name [page]
```

### パラメータ

- *database\_name* は、ビューのリストを表示する対象のデータベースを示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイル システムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイス メッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログ データが含まれています。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、unitydirdb データベース内のビューのリストを表示します。

```
show cuc dbview list unitydirdb

vw_agency
vw_agencyextensionrange
vw_alias
vw_alternatename
vw_broadcastmessage
vw_broadcastmessagerecipient
vw_callaction
...
vw_waveformat
```

## show cuc dbview schema

このコマンドは、指定したビューのスキーマを表示します。

### コマンド構文

```
show cuc dbview schema database_name view_name [page]
```

### パラメータ

- *database\_name* は、スキーマを表示する対象のビューが含まれているデータベースを示します。データベース名は、大文字と小文字が区別されます。Connection のデータベースには、次のものがあります。
  - **unitydirdb** : ディレクトリおよび設定のデータが含まれています。
  - **unitydyndb** : Connection によって内部で使用される動的データが含まれています。
  - **unitymbxdb1** : ファイルシステムに格納されている音声ファイルへのポインタなど、現在のボイスメッセージに関するデータが含まれています。
  - **unityrptdb** : 監査ログデータが含まれています。
- *view\_name* は、スキーマを表示する対象のビューを示します。  
特定のデータベース内のビューのリストを表示するには、**show cuc dbview list** コマンドを使用します。ビュー名は、大文字と小文字が区別されます。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、データベース `unitydirdb` 内のビュー `vw_user` のスキーマを表示します。

```
show cuc dbview schema unitydirdb vw_cos
```

```
A simple view for tbl_Cos.
```

```
Columns:
objectid
accessfaxmail
accesstts
callholdavailable
callscreenavailable
canrecordname
...
requiresecuremessages
```

## show cuc locales

このコマンドは、現在インストールされているロケールのリストを表示します。

### コマンド構文

**show cuc locales**

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

### 例

```
show cuc locales
```

```
Installed Locale Package  Locale
-----
uc-locale-en_GB-6.0.0.0-0  en-GB
uc-locale-fr_CA-6.0.0.0-0  fr-CA
```

## show cuc sysagent task list

このコマンドは、Sysagent タスクのリストを表示します。

### コマンド構文

**show cuc sysagent task list [page]**

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。 **page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 使用上のガイドライン

Sysagent タスクを実行するには、**run cuc sysagent task** コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

### 例

```
show cuc sysagent task list
```

```
BroadcastMessagePurge
CallManagerSubscriberTemplateSynchTask
CallManagerUserSynchTask
CertificateManagement
CleanDeletedMessagesTask
CleanDirectoryStreamFilesTask
CleanOrphanAttachmentFilesTask
...
UpdateDatabaseStats
```

## show cuc sysagent task results

このコマンドは、指定したタスクが開始した時刻と完了した時刻を、最新のものから順に表示します。

### コマンド構文

```
show cuc sysagent task results task_name [page]
```

### パラメータ

- *task\_name* は、開始した時刻と完了した時刻の情報を表示する対象のタスクを示します。タスク名のリストを表示するには、[show cuc sysagent task list](#) コマンドを実行します。タスク名は、大文字と小文字が区別されます。

### オプション

- *page* : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。*page* は、大文字と小文字が区別されます。

### 使用上のガイドライン

Sysagent タスクを実行するには、[run cuc sysagent task](#) コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、Sysagent タスク CleanDeletedMessages が開始した時刻と完了した時刻を表示します。

```
show cuc sysagent task results CleanDeletedMessagesTask
```

```
Time Started           Time Completed
-----
2006-10-25 17:31:45.689 2006-10-25 17:31:45.785
2006-10-25 17:16:45.702 2006-10-25 17:16:45.742
2006-10-25 17:01:45.690 2006-10-25 17:01:45.730
```

## show cuc tech dbschemaversion

このコマンドは、各データベースのスキーマ バージョン情報を表示します。

### コマンド構文

**show cuc tech dbschemaversion [page]**

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc tech dbschemaversion

unitydirdb
=====
Schema Version  Product Version  Date
-----
1.2.363         2.1             2007-02-13 19:10:50.0
```

## show cuc tech dbserver all

このコマンドは、すべての **show cuc tech** コマンドを順に実行し、結果をテキスト ファイルに保存します。

### コマンド構文

**show cuc tech dbserver all**

### 使用上のガイドライン

このコマンドが完了すると、詳細情報がテキスト ファイルに保存され、テキスト ファイルの場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc tech dbserver all

Output is in file: cuc/cli/dbserverall_061013-111801.txt
```

## show cuc tech dbserver integrity

このコマンドは、Informix データベース サーバ記憶域の構造の完全性を確認します。

### コマンド構文

```
show cuc tech dbserver integrity
```

### 使用上のガイドライン

このコマンドが完了すると、詳細情報がテキスト ファイルに保存され、そのファイルの場所など、結果の概要が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用します。

出力ファイルに次の警告が表示されることが予想されますが、無視してかまいません。

```
WARNING: No syssyntable records found
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

### 例

```
show cuc tech dbserver integrity
```

```
Database system catalog tables were successfully validated.
```

```
Database disk extents were successfully validated.
```

```
Database reserved pages were successfully validated.
```

```
Output is in file: cuc/cli/integrity_061013-95853.txt
```

## show cuc tech dbserver log diagnostic

このコマンドは、Informix のアサーション障害ログおよび共有メモリダンプ ログが存在するかどうかを確認します。

### コマンド構文

```
show cuc tech dbserver log diagnostic
```

### 使用上のガイドライン

これらのログが存在する場合、その場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

### 例

```
show cuc tech dbserver log diagnostic
```

```
The following Informix logs are available for the UC database server:
```

```
core/af.3599c
```

```
core/af.36858
```



## show cuc tech dbserver log message

このコマンドは、Informix メッセージ ログの末尾の *n* 行を表示します。

### コマンド構文

```
show cuc tech dbserver log message [lines] [page]
```

### パラメータ

- *lines* は、Informix メッセージ ログの末尾の何行を表示するかを示します。*lines* パラメータを指定しない場合、ログの末尾の 20 行が表示されます。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc tech dbserver log message
```

```
Message Log File: online.ciscounity.log
```

```
18:09:01 Fuzzy Checkpoint Completed: duration was 0 seconds, 6 buffers not flushed.  
18:09:01 Checkpoint logunig 57, logpos 0x208418, timestamp: 0x33b807
```

```
18:09:01 Maximum server connections 159  
18:14:01 Fuzzy Checkpoint Completed: duration was 0 seconds, 6 buffers not flushed.  
18:14:01 Checkpoint logunig 57, logpos 0x20a57c, timestamp: 0x33b9fc
```

## show cuc tech dbserver status

このコマンドは、データベース サーバ インスタンスの詳細なステータス レポートをファイルに保存します。

### コマンド構文

```
show cuc tech dbserver status
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc tech dbserver status
```

```
Output is in file: cuc/cli/status_061013-95031.txt
```

## show cuc trace levels

このコマンドは、現在有効になっているすべての診断トレースとトレース レベルのリストを表示します。

### コマンド構文

**show cuc trace levels** [page]

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。 **page** は、大文字と小文字が区別されます。

### 使用上のガイドライン

特定のトレースおよびトレース レベルを有効または無効にするには、 **set cuc trace** コマンドを使用します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show cuc trace levels
```

Trace Name	Levels
-----	-----
Arbiter	-
AudioStore	0
AxlAccess	-
BulkAdministrationTool	0
CCL	10,11
CDE	3,14
CDL	11,13,15,17
:	
:	
VirtualQueue	-

## show cuc version

このコマンドは、アクティブなパーティションおよび非アクティブなパーティションに現在インストールされている Cisco Unity Connection のバージョンを表示します。

### コマンド構文

**show cuc version**

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、常に、アクティブなパーティション内のバージョンを表示します。アクティブなパーティションにアップグレードが含まれている場合、このコマンドは非アクティブなパーティション内のバージョンも表示します。現在の Engineering Special も表示されます（存在する場合）。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

**例**

```
show cuc version

Active version: 2.0(1.0)
```

**show environment**

このコマンドは、サーバハードウェアに関する情報を表示します。

**コマンド構文**

```
show environment
```

```
  fans
  power-supply
  temperatures
```

**オプション**

- **fans** : ファンのプローブによって収集された情報を表示します。
- **power-supply** : 電源のプローブによって収集された情報を表示します。
- **temperatures** : 温度のプローブによって収集された情報を表示します。

**show firewall list**

このコマンドは、サーバのシステム要素を表示します。

**コマンド構文**

```
show firewall list [detail] [page] [file filename]
```

**オプション**

- **detail** : システムで使用可能な各デバイスに関する詳細な統計情報を表示します。
- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションでは、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」が含まれていないことを確認してください。

**要件**

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show hardware

このコマンドは、プラットフォーム ハードウェアに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show hardware
```

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、プラットフォーム ハードウェアに関する次の情報を表示します。

- プラットフォーム
- シリアル番号
- BIOS のビルド レベル
- BIOS の製造元
- アクティブなプロセッサ
- RAID コントローラのステータス

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show ipsec

このコマンドは、IPSec ポリシーおよびアソシエーションに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show ipsec
```

```
    policy  
    association policy  
    information policy association  
    status
```

### パラメータ

- **policy** は、ノード上のすべての IPSec ポリシーを表示します。
- **association** は、ポリシーのアソシエーション リストとステータスを表示します。
- **information** は、ポリシーのアソシエーションの詳細とステータスを表示します。
- **status** は、システムに定義されているすべての IPsec トンネルのステータスを表示します。
- *policy* は、特定の IPSec ポリシーの名前を示します。
- *association* は、アソシエーションの名前を示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

### 例

次の例では、IPSec ポリシーを表示します。

```
show ipsec policy
```

## show logins

このコマンドは、サーバへの最近のログインを一覧表示します。

### コマンド構文

```
show logins number
```

### パラメータ

*number* は、表示する最近のログイン数を示します。デフォルトは 20 です。

## show memory

このコマンドは、サーバメモリに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show memory
```

```
    count  
    module [ALL | module_number]  
    size
```

### オプション

- **count** : システム上のメモリ モジュールの数を表示します。
- **module** : 各メモリ モジュールに関する詳細情報を表示します。
- **size** : メモリの総量を表示します。

### パラメータ

**ALL** は、インストールされているすべてのメモリ モジュールに関する情報を表示します。

*module\_number* は、表示するメモリ モジュールを示します。

## show myself

このコマンドは、現在のアカウントに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show myself
```

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show network

このコマンドは、ネットワーク情報を表示します。

### コマンド構文

**show network**

```
eth0 [detail]
failover [detail] [page]
route [detail]
status [detail] [listen] [process] [all] [nodns] [search stext]
ip_contrack
max_ip_contrack
dhcp eth0 status
all [detail]
```

### パラメータ

- **eth0** は、イーサネット 0 を指定します。
- **failover** は、ネットワーク耐障害性情報を指定します。
- **route** は、ネットワーク ルーティング情報を指定します。
- **status** は、アクティブなインターネット接続を指定します。
- **ip\_contrack** は、ip\_contrack 使用状況の情報を指定します。
- **max\_ip\_contrack** は、max\_ip\_contrack 情報を指定します。
- **dhcp eth0 status** は、DHCP ステータス情報を表示します。
- **all** は、すべての基本的なネットワーク情報を指定します。

### オプション

- **detail** : 詳細情報を表示します。
- **page** : 情報を一度に 1 ページずつ表示します。
- **listen** : リスニング ソケットだけを表示します。
- **process** : 各ソケットが属するプログラムのプロセス ID と名前を表示します。
- **all** : リスニング ソケットと非リスニング ソケットの両方を表示します。
- **nodns** : DNS 情報なしで、数値アドレスを表示します。
- **search stext** : 出力の stext を検索します。

### 使用上のガイドライン

**eth0** パラメータを指定すると、イーサネット ポート 0 の設定 (DHCP や DNS の設定やオプションなど) が表示されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、アクティブなインターネット接続を表示します。

```
show network status
```

## show open

このコマンドは、システム上のオープン ファイルおよびオープン ポートを表示します。

### コマンド構文

#### show open

```
files [all] [process processID] [regexp reg_exp]  
ports [all] [regexp reg_exp]
```

### パラメータ

- **files** は、システム上のオープン ファイルを表示します。
- **ports** は、システム上のオープン ポートを表示します。

### オプション

- **all** : すべてのオープン ファイルまたはオープン ポートを表示します。
- **process** : 指定したプロセスに属するオープン ファイルを表示します。
- **processID** : プロセスを示します。
- **regexp** : 指定した正規表現に一致するオープン ファイルまたはオープン ポートを表示します。
- **reg\_exp** : 正規表現を示します。

## show packages

このコマンドは、インストールされているパッケージの名前とバージョンを表示します。

### コマンド構文

#### show packages

```
active name [page]  
inactive name [page]
```

### パラメータ

*name* は、パッケージ名を示します。アクティブなパッケージまたは非アクティブなパッケージをすべて表示するには、ワイルドカード文字 \* を使用します。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf counterhelp

このコマンドは、指定した perfmon カウンタを説明するテキストを表示します。

### コマンド構文

```
show perf counterhelp class-name counter-name
```

### パラメータ

- *class-name* は、カウンタが含まれているクラスの名前を示します。
- *counter-name* は、表示するカウンタを示します。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれる場合は、名前を二重引用符で囲ってください。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show perf list categories

このコマンドは、perfmon システム内のすべてのカテゴリを一覧表示します。

### コマンド構文

```
show perf list categories
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show perf list classes

このコマンドは、perfmon クラスまたはオブジェクトを一覧表示します。

### コマンド構文

```
show perf list classes [cat category] [detail]
```

### オプション

- *detail*：詳細情報を表示します。
- *cat category*：指定したカテゴリの perfmon クラスを表示します。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり



## show perf list counter

このコマンドは、指定した `perfmom` クラスの `perfmom` カウンタを一覧表示します。

コマンド構文

```
list counters class-name [detail]
```

### パラメータ

*class-name* は、カウンタを一覧表示する対象の `perfmom` クラス名を示します。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれる場合は、名前を二重引用符で囲んでください。

### オプション

**detail** : 詳細情報を表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf list instances

このコマンドは、指定した `perfmom` クラスの `perfmom` インスタンスを一覧表示します。

コマンド構文

```
list instances class-name [detail]
```

### パラメータ

*class-name* は、インスタンスを一覧表示する対象の `perfmom` クラス名を示します。



(注) クラス名に空白が含まれる場合は、名前を二重引用符で囲んでください。

### オプション

**detail** : 詳細情報を表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf query class

このコマンドは、perfmon クラスを照会し、すべてのインスタンスと各インスタンスのカウンタ値を表示します。

### コマンド構文

```
show perf query class class-name [,class-name...]
```

### パラメータ

*class-name* は、照会する perfmon クラスを示します。コマンドごとに最大 5 つのクラスを指定できます。



(注) クラス名に空白が含まれる場合は、名前を二重引用符で囲んでください。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf query counter

このコマンドは、指定したカウンタを照会し、すべてのインスタンスのカウンタ値を表示します。

### コマンド構文

```
show perf query counter class-name counter-name [,counter-name...]
```

### パラメータ

- *class-name* は、照会する perfmon クラスを示します。
- *counter-name* は、表示するカウンタを示します。コマンドごとに最大 5 つのカウンタを指定できます。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれる場合は、名前を二重引用符で囲んでください。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf query instance

このコマンドは、指定したインスタンスを照会し、そのカウンタ値をすべて表示します。

### コマンド構文

```
show perf query instance class-name instance-name [,instance-name...]
```

### パラメータ

- *class-name* は、照会する *perfmom* クラスを示します。
- *instance-name* は、表示する *perfmom* インスタンスを示します。コマンドごとに最大 5 つのインスタンスを指定できます。



(注) クラス名またはインスタンス名に空白が含まれる場合は、名前を二重引用符で囲ってください。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、シングルトン *perfmom* クラスには適用されません。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf query path

このコマンドは、指定した *perfmom* パスを照会します。

### コマンド構文

```
show perf query path path-spec [,path-spec...]
```

### パラメータ

- インスタンスベースの *perfmom* クラスの場合は、*path-spec* を *class-name(instance-name)\counter-name* のように指定します。
- 非インスタンスベースの *perfmom* クラス (シングルトン) の場合は、*path-spec* を *class-name\counter-name* のように指定します。  
コマンドごとに最大 5 つのパスを指定できます。



(注) パス名に空白が含まれる場合は、名前を二重引用符で囲ってください。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show perf query path "Cisco Phones(phone-0)\CallsAttempted",  
"Cisco Unified Communications Manager\TlChannelsActive"
```

## show process

このコマンドは、プロセスおよび負荷の情報を表示します。

### コマンド構文

#### show process

```
load [cont] [clear] [noidle] [num xx] [thread] [cpu] [memory] [time] [specified] [page]
list [page] [short] [detail] [thread] [fd] [cont] [clear] [process id id] [argument id id] [owner name
name]
```

### パラメータ

- **load** は、アクティブな各プロセスの CPU 負荷を表示します。
- **list** は、すべてのプロセスを表示します。

### オプション

- **cont** : コマンドを継続して繰り返します。
- **clear** : 出力を表示する前に画面をクリアします。
- **noidle** : アイドルプロセスおよびゾンビプロセスを無視します。
- **num xx** : 表示するプロセスの数を設定します (デフォルト = 10、**all** = すべてのプロセス)。
- **thread** : スレッドを表示します。
- **cpu** : CPU 使用率に基づいて出力を表示します。
- **memory** : メモリ使用量で出力をソートします。
- **short** : 短いリストを表示します。
- **time** : 時間使用量で出力をソートします。
- **page** : 一度に 1 ページずつ表示します。
- **detail** : 詳細なリストを表示します。
- **process id id** : 特定のプロセス番号またはコマンド名だけを表示します。
- **argument name name** : この引数名を持つ特定のプロセスだけを表示します。
- **thread** : スレッドプロセスをリストに含めます。
- **fd** : プロセスに関連付けられているファイル記述子を表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、プロセスの詳細なリストを一度に 1 ページずつ表示します。

```
show process list detail page
```

## show registry

このコマンドは、レジストリの内容を表示します。

### コマンド構文

```
show registry system component [name] [page]
```

### パラメータ

- *system* は、レジストリのシステム名を示します。
- *component* は、レジストリのコンポーネント名を示します。
- *name* は、表示するパラメータの名前を示します。



(注) すべての項目を表示するには、ワイルドカード文字 \* を入力します。

### オプション

*page* : 一度に 1 ページずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、*cm* システムの *dbl/sdi* コンポーネントの内容を表示します。

```
show registry cm dbl/sdi
```

## show risdb

このコマンドは、RIS データベース テーブルの情報を表示します。

### コマンド構文

```
show risdb
```

```
list [file filename]
```

```
query table1 table2 table3 ...[file filename]
```

### パラメータ

- *list* は、Realtime Information Service (RIS) データベースでサポートされているテーブルを表示します。
- *query* は、RIS テーブルの内容を表示します。

### オプション

*file filename* : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションでは、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」を使用することはできません。

**要件**

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

**例**

次の例では、RIS データベース テーブルのリストを表示します。

```
show risdb list
```

**show smtp**

このコマンドは、SMTP ホストの名前を表示します。

**コマンド構文**

```
show snmp
```

**要件**

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

**show stats io**

このコマンドは、システムの IO 統計情報を表示します。

**コマンド構文**

```
show stats io [kilo] [detail] [page] [file filename]
```

**オプション**

- **kilo** : 統計情報を KB 単位で表示します。
- **detail** : システムで使用可能な各デバイスに関する詳細な統計情報を表示し、kilo オプションを無効にします。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションでは、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」を使用することはできません。

**要件**

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show status

このコマンドは、基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。

### コマンド構文

**show status**

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、次の基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。

- ホスト名
- 日付
- タイムゾーン
- ロケール
- 製品のバージョン
- プラットフォームのバージョン
- CPU 使用率
- メモリとディスクの使用量

### 要件

コマンド特権レベル : 0

## show tech all

このコマンドは、すべての **show tech** コマンドの出力を結合して表示します。

### コマンド構文

**all** [**page**] [**file filename**]

### オプション

- **page** : 一度に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションでは、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」を使用することはできません。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech ccm\_service

このコマンドは、システム上で実行できるすべての Cisco Unified Communications Manager サービスに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show tech ccm_service
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech database

このコマンドは、データベース全体の CSV ファイルを作成します。

### コマンド構文

```
show tech database
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech dbintegrity

このコマンドは、データベースの完全性を表示します。

### コマンド構文

```
show tech dbintegrity
```

## show tech dbinuse

このコマンドは、使用中のデータベースを表示します。

### コマンド構文

```
show tech dbinuse
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり



## show tech dbschema

このコマンドは、CSV ファイル内のデータベース スキーマを表示します。

### コマンド構文

```
show tech dbschema
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech dbstateinfo

このコマンドは、データベースの状態を表示します。

### コマンド構文

```
show tech dbstateinfo
```

## show tech devdefaults

このコマンドは、デバイスのデフォルト テーブルを表示します。

### コマンド構文

```
show tech devdefaults
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech gateway

このコマンドは、データベースのゲートウェイ テーブルを表示します。

### コマンド構文

```
show tech gateway
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech locales

このコマンドは、デバイス、デバイス プール、およびエンド ユーザのロケール情報を表示します。

### コマンド構文

**show tech locales**

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech network

このコマンドは、サーバのネットワーク要素を表示します。

### コマンド構文

**show tech network [page] [file filename]**

### オプション

- **page**：一度に 1 ページずつ表示します。
- **file filename**：情報をファイルに出力します。



(注) file オプションでは、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」を使用することはできません。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech notify

このコマンドは、データベース変更通知モニタを表示します。

### コマンド構文

**show tech notify**

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech params all

このコマンドは、すべてのデータベース パラメータを表示します。

### コマンド構文

```
show tech params all
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech params enterprise

このコマンドは、データベースのエンタープライズ パラメータを表示します。

### コマンド構文

```
show tech params enterprise
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech params service

このコマンドは、データベースのサービス パラメータを表示します。

### コマンド構文

```
show tech params service
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech prefs

このコマンドは、データベースの設定を表示します。

### コマンド構文

```
show tech prefs
```

## show tech procedures

このコマンドは、データベースに使用されているプロシージャを表示します。

### コマンド構文

**show tech procedures**

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech routepatterns

このコマンドは、システムに設定されているルートパターンを表示します。

### コマンド構文

**show tech routepatterns**

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech routeplan

このコマンドは、システムに設定されているルートプランを表示します。

### コマンド構文

**show tech routeplan**

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech runtime

このコマンドは、サーバのランタイム要素を表示します。

### コマンド構文

**show tech params runtime [page] [file filename]**

### オプション

- **page**：一度に 1 ページずつ表示します。
- **file filename**：情報をファイルに出力します。



(注) file オプションでは、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」を使用することはできません。

#### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech systables

このコマンドは、sysmaster データベース内のすべてのテーブルの名前を表示します。

#### コマンド構文

**show tech systables**

#### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech system

このコマンドは、サーバのシステム要素を表示します。

#### コマンド構文

**show tech system [page] [file filename]**

#### オプション

- **page** : 一度に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションでは、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」を使用することはできません。

#### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech table

このコマンドは、指定したデータベース テーブルの内容を表示します。

### コマンド構文

```
show tech table table_name [page] [csv]
```

### パラメータ

*table\_name* は、表示するテーブルの名前を示します。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。
- **csv** : 出力をカンマ区切り形式ファイルに送信します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech triggers

このコマンドは、テーブル名、およびテーブルに関連付けられているトリガーを表示します。

### コマンド構文

```
show tech triggers
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech version

このコマンドは、インストールされているコンポーネントのバージョンを表示します。

### コマンド構文

```
show tech version [page]
```

### オプション

**Page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show timezone

このコマンドは、タイムゾーン情報を表示します。

### コマンド構文

**show timezone**

**config**  
**list [page]**

### パラメータ

- **config** は、現在のタイムゾーン設定を表示します。
- **list** は、使用可能なタイムゾーンを表示します。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show trace

このコマンドは、特定のタスクのトレース情報を表示します。

### コマンド構文

**show trace [task\_name]**

### パラメータ

*task\_name* は、トレース情報を表示する対象のタスクの名前を示します。



**(注)** パラメータを入力しない場合は、使用可能なタスクのリストが返されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

次の例では、**cdp** のトレース情報を表示します。

```
show trace cdp
```

## show ups status

このコマンドは、USB 接続された APC スマート UPS デバイスの現在のステータスを表示し、モニタリングサービスを開始します（まだ開始されていない場合）。

完全なステータスを表示するこのコマンドは、7835-H2 サーバおよび 7825-H2 サーバに限り使用できます。

### コマンド構文

```
show ups status
```

## show version

このコマンドは、アクティブなパーティションまたは非アクティブなパーティション上のソフトウェアバージョンを表示します。

### コマンド構文

```
show version
```

```
active
```

```
inactive
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show web-security

このコマンドは、現在の Web セキュリティ証明書の内容を表示します。

### コマンド構文

```
show web-security
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show workingdir

このコマンドは、activelog、inactivelog、install、および TFTP の現在の作業ディレクトリを取得します。

### コマンド構文

```
show workingdir
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり



## unset ipsec

このコマンドでは、IPSec ポリシーおよびアソシエーションを無効にすることができます。

### コマンド構文

#### unset ipsec

```
policy {ALL | policy-name}  
association policy-name {ALL | association-name}
```

### パラメータ

- *policy-name* は、IPSec ポリシーの名前を示します。
- *association-name* は、IPSec アソシエーションの名前を示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## unset network

このコマンドは、DNS オプションを設定解除します。

### コマンド構文

#### unset network dns options [*timeout*] [*attempts*] [*rotate*]

### パラメータ

- *timeout* は、システムが DNS クエリーを失敗と見なすまでの待ち時間をデフォルトに設定します。
- *attempts* は、失敗するまでの DNS 試行回数をデフォルトに設定します。
- *rotate* は、ネーム サーバを選択する方法をデフォルトに設定します。これは、ネーム サーバ間で負荷が分散される方法に影響を及ぼします。

### 使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



#### 注意

続行する場合は、システムのネットワーク接続が一時的に切断されます。

## utils core list

このコマンドは、既存のすべてのコア ファイルを一覧表示します。

### コマンド構文

#### utils core list

## utils core analyze

このコマンドは、指定したコア ファイルのバックトレース、スレッドリスト、およびすべての CPU レジスタの現在の値を生成します。

### コマンド構文

`utils core analyze core file name`

### パラメータ

- `core file name` は、コア ファイルの名前を示します。

### 使用上のガイドライン

このコマンドでは、コア ファイルと同じディレクトリに、拡張子 `.txt` で、コア ファイルと同じ名前のファイルが作成されます。このコマンドは、アクティブなパーティションだけで動作します。

## utils csa disable

このコマンドは、Cisco Security Agent (CSA) を停止します。

### コマンド構文

`utils csa disable`

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils csa enable

このコマンドは、Cisco Security Agent (CSA) を有効にします。

### コマンド構文

`utils csa enable`

### 使用上のガイドライン

CSA を有効にするかどうかの確認を求められます。



### 注意

---

CSA.ca の起動後にシステムを再起動する必要があります。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils csa status

このコマンドは、Cisco Security Agent (CSA) の現在のステータスを表示します。

### コマンド構文

`utils csa status`

### 使用上のガイドライン

CSA が実行されているかどうかが表示されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils dbreplication status

このコマンドは、データベース レプリケーションのステータスを表示します。このコマンドは、クラスタの最初のノード (パブリッシャ サーバ) だけで実行する必要があります。

### コマンド構文

`utils dbreplication status`

## utils dbreplication stop

このコマンドは、データベース レプリケーションの自動セットアップを停止します。

### コマンド構文

`utils dbreplication stop`

## utils dbreplication repair

このコマンドは、データベース レプリケーションを修復します。

### コマンド構文

`utils dbreplication repair`

## utils dbreplication reset

このコマンドは、データベース レプリケーションをリセットし、再起動します。

### コマンド構文

`utils dbreplication reset`

## utils disaster\_recovery backup tape

このコマンドは、バックアップ ジョブを起動し、生成される tar ファイルをテープに格納します。

### コマンド構文

**backup tape** *featurelist* *tapeid*

### パラメータ

- *featurelist* は、バックアップする機能のカンマ区切りリストを示します。
- *tapeid* は、使用可能なテープ デバイスの ID を示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils disaster\_recovery backup network

このコマンドは、バックアップ ジョブを起動し、生成される tar ファイルをリモート サーバに格納します。

### コマンド構文

**backup network** *featurelist* *path* *servername* *username*

### パラメータ

- *featurelist* は、バックアップする機能のカンマ区切りリストを示します。
- *path* は、リモート サーバ上のバックアップ ファイルの場所を示します。
- *servername* は、バックアップ ファイルを格納するサーバの IP アドレスまたはホスト名を示します。
- *username* は、リモート サーバにログインするために必要なユーザ名を示します。

### 使用上のガイドライン



(注)

---

リモート サーバ上のアカウントのパスワードを入力するよう求められます。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils disaster\_recovery cancel\_backup

このコマンドは、実行中のバックアップ ジョブをキャンセルします。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery cancel_backup
```

### 使用上のガイドライン

バックアップ ジョブをキャンセルするかどうかの確認を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils disaster\_recovery restore\_tape

このコマンドは、復元ジョブを起動し、バックアップの tar ファイルをテープから取得します。

### コマンド構文

```
restore_tape server tarfilename tapeid
```

### パラメータ

- *server* は、復元するサーバのホスト名を示します。
- *tarfilename* は、復元するファイルの名前を示します。
- *tapeid* は、復元ジョブに使用する復元元のテープ デバイスの名前を示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils disaster\_recovery restore\_network

このコマンドは、復元ジョブを起動し、バックアップの tar ファイルをリモート サーバから取得します。

### コマンド構文

```
restore_network restore_server tarfilename path servername username
```

### パラメータ

- *restore\_server* は、復元するサーバのホスト名を示します。
- *tarfilename* は、復元するファイルの名前を示します。
- *path* は、リモート サーバ上のバックアップ ファイルの場所を示します。
- *servername* は、バックアップ ファイルを格納したサーバの IP アドレスまたはホスト名を示します。
- *username* は、リモート サーバにログインするために必要なユーザ名を示します。

### 使用上のガイドライン



(注) リモート サーバ上のアカウントのパスワードを入力するよう求められます。

#### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils disaster\_recovery show\_backupfiles network

このコマンドは、復元ジョブを起動し、バックアップの tar ファイルをリモート サーバから取得します。

#### コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_backupfiles network path servername username
```

#### パラメータ

- *path* は、リモート サーバ上のバックアップ ファイルの場所を示します。
- *servername* は、バックアップ ファイルを格納したサーバの IP アドレスまたはホスト名を示します。
- *username* は、リモート サーバにログインするために必要なユーザ名を示します。

### 使用上のガイドライン



(注) リモート サーバ上のアカウントのパスワードを入力するよう求められます。

#### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils disaster\_recovery show\_backupfiles tape

このコマンドは、テープに格納されているバックアップ ファイルに関する情報を表示します。

#### コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_backupfiles tape tapeid
```

#### パラメータ

- *tapeid* は、使用可能なテープ デバイスの ID を示します。

#### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils disaster\_recovery show\_registration

このコマンドは、指定したサーバ上の登録済みの機能およびコンポーネントを表示します。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_registration hostname
```

### パラメータ

- *hostname* は、登録情報を表示する対象のサーバを示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils disaster\_recovery show\_tapeid

このコマンドは、テープ デバイス ID のリストを表示します。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_tapeid
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils disaster\_recovery status

このコマンドは、現在のバックアップ ジョブまたは復元ジョブのステータスを表示します。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery status operation
```

### パラメータ

- *operation* は、実行中の操作の名前 (**backup** または **restore**) を示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils ithrottle enable

このコマンドは、I/O スロットリング拡張を有効にします。I/O スロットリング拡張が有効な場合、アクティブなシステムに対するアップグレードの影響が小さくなります。

### コマンド構文

```
utils ithrottle enable
```

## utils iothrottle disable

このコマンドは、I/O スロットリング拡張を無効にします。この操作は、アップグレード時にシステムに悪影響を及ぼす可能性があります。

### コマンド構文

```
utils iothrottle disable
```

## utils iothrottle status

このコマンドは、I/O スロットリング拡張のステータスを表示します。

### コマンド構文

```
utils iothrottle status
```

## utils netdump client

このコマンドは、netdump クライアントを設定します。

### コマンド構文

```
utils netdump client
```

```
start ip-address-of-netdump-server
```

```
status
```

```
stop
```

### パラメータ

- **start** は、netdump クライアントを起動します。
- **status** は、netdump クライアントのステータスを表示します。
- **stop** は、netdump クライアントを停止します。
- *ip-address-of-netdump-server* は、クライアントが診断情報を送信する先の netdump サーバの IP アドレスを示します。

### 使用上のガイドライン

カーネルパニッククラッシュが発生した場合、netdump クライアントはクラッシュに関する診断情報を netdump サーバに送信します。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし



## utils netdump server

このコマンドは、netdump サーバを設定します。

### コマンド構文

#### utils netdump server

```
add-client ip-address-of-netdump-client  
delete-client ip-address-of-netdump-client  
list-clients  
start  
status  
stop
```

### パラメータ

- **add-client** は、netdump クライアントを追加します。
- **delete-client** は、netdump クライアントを削除します。
- **list-clients** は、この netdump サーバに登録されているクライアントを一覧表示します。
- **start** は、netdump サーバを起動します。
- **status** は、netdump サーバのステータスを表示します。
- **stop** は、netdump サーバを停止します。
- *ip-address-of-netdump-client* は、netdump クライアントの IP アドレスを示します。

### 使用上のガイドライン

カーネルパニック クラッシュが発生した場合、netdump 対応のクライアント システムはクラッシュに関する診断情報を netdump サーバに送信します。

netdump 診断情報は、netdump サーバ上の *crash/* に格納されます。クライアント IP アドレスと日付で構成される名前のサブディレクトリに、netdump 情報が含まれます。

各 Cisco Unified Communications オペレーティング システム サーバを netdump クライアントおよび netdump サーバの両方として設定できます。

サーバが別の Cisco Unified Communications オペレーティング システム サーバ上にある場合は、カーネルパニック トレース シグニチャだけがサーバに送信されます。それ以外の場合は、コア ダンプ全体が送信されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils network arp

このコマンドは、Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) テーブルのエントリを一覧表示、設定、または削除します。

### コマンド構文

#### utils network arp

```
list [host host] [page] [numeric]
set {host} {address}
delete host
```

### パラメータ

- **list** は、アドレス解決プロトコル テーブルの内容を一覧表示します。
- **set** は、アドレス解決プロトコル テーブル内のエントリを設定します。
- **delete** は、アドレス解決プロトコル テーブル内のエントリを削除します。
- *host* は、テーブルに対して追加または削除するホストの名前または IP アドレスを示します。
- *address* は、追加するホストの MAC アドレスを示します。MAC アドレスは、XX:XX:XX:XX:XX:XX という形式で入力します。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。
- **numeric** : ドット付き IP アドレスでホストを表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils network capture eth0

このコマンドは、指定したイーサネット インターフェイス上の IP パケットをキャプチャします。

### コマンド構文

```
utils network capture eth0 [page] [numeric] [file fname] [count num] [size bytes] [src addr] [dest addr] [port num]
```

### パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

### オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。  
page オプションまたは file オプションを使用する場合は、コマンドが完了する前に、要求したすべてのパケットの完全なキャプチャが実行される必要があります。
- **numeric** : ドット付き IP アドレスでホストを表示します。
- **file *fname*** : 情報をファイルに出力します。  
file オプションでは、情報が platform/cli/*fname*.cap に保存されます。ファイル名に「.」を使用することはできません。
- **count *num*** : キャプチャするパケットの数を設定します。  
画面出力の最大数は 1000 で、ファイル出力の最大数は 10,000 です。

- **size bytes** : キャプチャするパケットのバイト数を設定します。  
画面出力の最大バイト数は 128 で、ファイル出力の最大バイト数は任意の数または **ALL** にすることができます。
- **src addr** : パケットの送信元アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
- **dest addr** : パケットの宛先アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
- **port num** : パケットの送信元または宛先のポート番号を指定します。

#### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils network host

このコマンドは、ホスト名をアドレスに、またはアドレスをホスト名に解決します。

#### コマンド構文

```
utils network host hostname [server server-name] [page] [detail] [srv]
```

#### パラメータ

- *hostname* は、解決するホスト名または IP アドレスを示します。

#### オプション

- *server-name* : 代替ドメイン ネーム サーバを示します。
- **page** : 出力を一度に 1 画面ずつ表示します。
- **detail** : 詳細なリストを表示します。
- **srv** : DNS SRV レコードを表示します。

#### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils network ping

このコマンドでは、別のサーバに対して PING を実行できます。

#### コマンド構文

```
utils network ping destination [count]
```

#### パラメータ

- *destination* は、PING の対象となるサーバのホスト名または IP アドレスを示します。

#### オプション

- *count* : 外部サーバに対して PING を実行する回数を示します。デフォルトは 4 回です。

#### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils network tracert

このコマンドは、リモートの宛先に送信される IP パケットをトレースします。

### コマンド構文

**utils network tracert** *destination*

### パラメータ

- *destination* は、トレースの送信先となるサーバのホスト名または IP アドレスを示します。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## utils ntp

このコマンドは、NTP のステータスまたは設定を表示します。

### コマンド構文

**utils ntp** {*status* | *config*}

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## utils remote\_account

このコマンドでは、リモート アカウントの有効化、無効化、作成、またはステータス確認を行うことができます。

### コマンド構文

**utils remote\_account**

**status**

**enable**

**disable**

**create** *username* *life*

### パラメータ

- *username* は、リモート アカウントの名前を示します。username は、すべて小文字で、6 文字以上にする必要があります。
- *life* は、アカウントの有効日数を示します。指定した日数を経過すると、アカウントは期限切れになります。

### 使用上のガイドライン

リモート アカウントからパス フレーズが生成されます。このパス フレーズを使用して、シスコシステムズのサポート担当者は、指定されたアカウント有効期間中にシステムにアクセスできます。有効なリモート アカウントは、同時に 1 つしか存在できません。

**要件**

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

**例**

```
utils remote_account status
```

**utils reset\_ui\_administrator\_name**

このコマンドは、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理の管理者アカウント名をリセットします。

**コマンド構文**

```
utils reset_ui_administrator_name
```

**utils reset\_ui\_administrator\_password**

このコマンドは、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理のパスワードをリセットします。

**コマンド構文**

```
utils reset_ui_administrator_password
```

**utils service list**

このコマンドは、すべてのサービスとそれらのステータスのリストを取得します。

**コマンド構文**

```
utils service list [page]
```

**オプション**

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

**要件**

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils service

このコマンドは、サービスを停止、開始、または再起動します。

### コマンド構文

#### utils service

```
start service-name
stop service-name
restart service-name
auto-restart {enable | disable | show} service-name
```

### パラメータ

- *service-name* は、停止または開始するサービスの名前を示します。
  - System NTP
  - System SSH
  - Service Manager
  - A Cisco DB
  - Cisco Tomcat
  - Cisco Database Layer Monitor
  - Cisco Unified Serviceability
- **enable** は、自動再起動を有効にします。
- **disable** は、自動再起動を無効にします。
- **show** は、自動再起動のステータスを表示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils sftp handshake

このコマンドは、クラスタのすべてのメンバーと SFTP SSH 鍵を交換します。

### コマンド構文

#### utils sftp handshake

## utils snmp test

このコマンドは、ローカル syslog、リモート syslog、および SNMP トラップにサンプルアラームを送信することによって、SNMP ホストをテストします。

### コマンド構文

#### utils snmp test

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils soap realservice test

このコマンドは、リモート サーバ上でいくつかのテスト ケースを実行します。

### コマンド構文

```
utils soap realservice test remote-ip remote-https-user remote-https-password
```

### パラメータ

- *remote-ip* は、テスト対象のサーバの IP アドレスを示します。
- *remote-https-user* は、SOAP API にアクセスできるユーザ名を示します。
- *remote-https-password* は、SOAP API にアクセスできるアカウントのパスワードを示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils system

このコマンドでは、同じパーティションでのシステムの再起動、非アクティブ パーティションでのシステムの再起動、またはシステムのシャットダウンを実行できます。

### コマンド構文

```
utils system {restart | shutdown | switch-version}
```

### 使用上のガイドライン

**utils system shutdown** コマンドには、5 分のタイムアウトが用意されています。このコマンドでは、システムが 5 分以内にシャットダウンしない場合、強制シャットダウンを実行するオプションが提供されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils system upgrade

このコマンドでは、サーバをアップグレードできます。

### コマンド構文

#### utils system upgrade

```
cancel
get {local | remote} filename
list {local | remote} path
start
```

### パラメータ

- **cancel** は、アクティブなアップグレードをキャンセルします。
- **get** は、アップグレードに使用するアップグレードファイルを取得します。
- **local** は、アップグレードファイルがローカルドライブ上にあることを指定します。
- **remote** は、アップグレードファイルがリモートシステム上にあることを指定します。
- **filename** は、アップグレードファイルの名前を示します。
- **path** は、アップグレードファイルへのパスを示します。
- **list** は、使用可能なアップグレードファイルを一覧表示します。
- **start** は、**get** パラメータで取得したアップグレードファイルでアップグレードを開始します。

### 使用上のガイドライン

システムをアップグレードするには、主に次の手順を実行します。

1. **utils system upgrade list** コマンドを使用して、アップグレード元のローカルディスクまたはリモートサーバ上の使用可能な .iso アップグレードファイルのリストを表示します。
2. **utils system upgrade get** コマンドを使用して、目的のアップグレードファイルを取得します。
3. **utils system upgrade start** コマンドを使用して、取得したアップグレードファイルからアップグレードを開始します。